11月15日、市立恵那病院に眼科を開設

市立恵那病院では、かねてより市民の皆さんから要望の多かった眼科を11月15日に開設する運びとなりました。その概要を紹介します。

□問い合わせ　病院管理課℡26－2111（内線527）

▶マルチカラーレーザー光凝固装置、グリーンレーザー光凝固装置、超音波白内障手術装置、手術顕微鏡ビデオシステムなどを導入し、高度な手術にも十分に対応

眼科の開設は、平成十三年、当時の恵那市が市民の意見を幅広く集約するために設置した「地域医療推進懇話会」の中で、市民から設置要望のある診療科として、将来的な設置が必要と位置付けられました。

新恵那市は、高齢化率が約25・2％と高い水準を示しており、恵那病院では、リハビリ機能の強化、通所リハビリ施設の開設、療養病床の保有など、高齢社会に対応していくこととしています。高齢社会の中で近年、糖尿病などの生活習慣病患者が増加しており、合併症として眼科疾患のニーズは高く、高齢者の増加に伴って、今後もますます増加することが予測されています。

これまで市内には、眼科の専門医院が一カ所しかなく、市民の皆さんに不便をお掛けしていました。今回、硝子体、白内障、緑内障、網膜はく離、糖尿病性網膜症などの眼科疾病のレーザー治療、手術用機器を導入し、糖尿病網膜症からの網膜はく離による硝子体手術まで行うことができる体制の整った眼科が恵那病院に開設することで、市内はもとより東濃東部の患者さんの負担の軽減が図られると考えています。

ホットニュース

小児科と耳鼻咽喉科を一階に移設整備

国立病院当時から二階にあったため、利用される皆さんに不便をかけていた小児科と耳鼻咽喉科を一階に移設整備しました。これにより今回新規に開設する眼科を含め、外来診療機能はすべて一階に集約し、利用される皆さんの利便性の向上を図っています。

眼科利用のご案内

【外来受付時間】
火～金曜日、第１・３土曜日
午前８時半～11時半

【予約・検査】
火～金曜日
午後１時半～３時

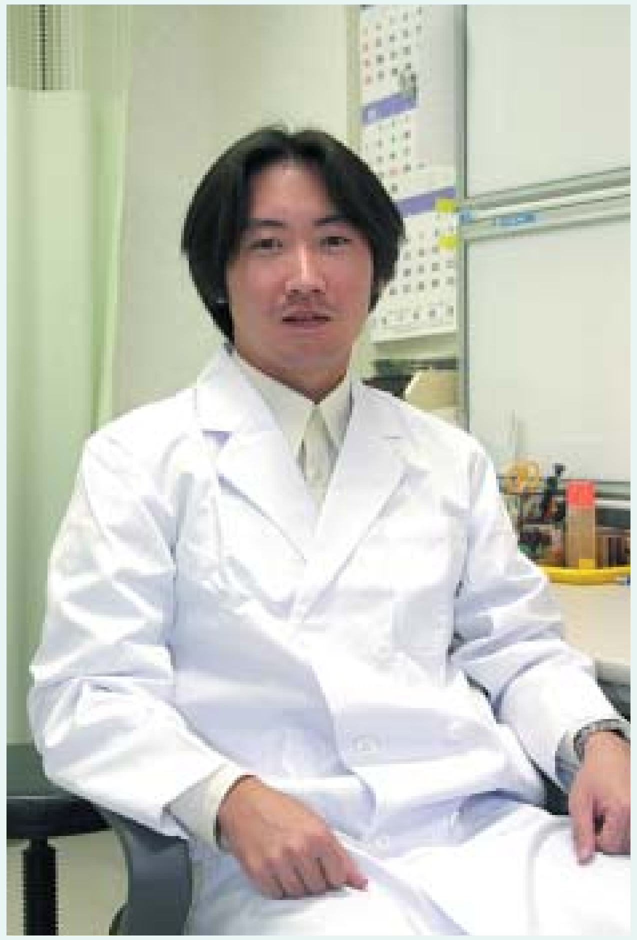
【手術日】
月曜日

※時間外の急患はこの限りではありません。

□問い合わせ　市立恵那病院℡26-2121

市立恵那病院眼科科長

伊藤丈詞さん



●いとう・たけし　福岡市博多出身。平成11年名古屋市立大学医学部卒業。２年間の研修医の後、静岡県立総合病院を経て平成14年２月から名古屋市立大学眼科学教室助手。平成16年11月市立恵那病院眼科科長に着任。30歳。

あらゆる目の病気に対応します

－市立恵那病院の眼科科長に着任した伊藤先生にお話を伺いました。

病院の特性を生かす

目の病気は、年齢に関係したものが多く、白内障や黄斑変性症などは、加齢とともに出てくる病気です。こうした病気の治療にあたることはもちろんですが、高血圧や糖尿病など全身疾患に関係した目の病気、病院でしか診ることができない目の病気を積極的に治療していきたいと考えています。

高度な手術で地域に貢献

現在、日本で中途失明する方が一番多いのが糖尿病網膜症です。恵那病院では手術をはじめ、一通りの治療が行える体制が整っています。さらに目の奥の網膜硝子体の手術も十分に対応できる体制になっています。

網膜硝子体疾患の手術に関しては、ずっと専門に研修をしてきました。個人的に興味のある分野でもあり、ぜひ地域のためにお役に立てればと思っています。

眼科医同士の連携も

地域の開業医さんとの連携も大切です。もし施設的に手に負えないような疾患や、入院が必要な疾患などがあれば、紹介していただいて治療にあたっていきたいです。逆にこちらからも、病院で診るような病気ではなく、近くの眼科医院でという方がいれば、ぜひ協力をしていただいて、紹介していきたいと思います。あまり眼科医の多くない地域ですので、皆さんで連携していければと思います。

気軽に相談を

目というのは、生活の上で重要な器官の一つです。もし異常を感じたときは、どんな小さなことでも構わないので、受診したり、相談だけでもしていただければと思います。

New Face

視能訓練士

矢澤真実さん

これまで名古屋市立大学病院で研修させていただき、今回、先生と一緒に市立恵那病院に赴任いたしました。

視能訓練士の仕事は、視力を測っているイメージがあると思いますが、眼科の検査は特殊性があり、緑内障の患者さんの視野を測ったり、斜視の患者さんはどのくらいの斜視なのかを検査したりと、眼科の一般検査すべてを受け持ちます。

先生より先に患者さんと接する仕事ですので、患者さんがどんな気持ちで来ているのかを十分に聞いて気持ちを理解し、訴えに合った検査をして、先生に引き継げるようにしたいと思います。